

ライオン通信



<URL><http://www.kooge.jp/> <e-mail>info@kooge.jp

Vol.95 平成23年11月10日発行

郡家コンクリート工業株式会社
〒680-0427 鳥取県八頭郡八頭町奥谷 206-1
TEL(0858)72-1154 FAX(0858)72-1614

全国生コン青年部協議会「第10回全国大会」開催

基調講演「コンクリートが日本を救う」

全国生コン青年部協議会全国大会が10月28日に米子市で開催され、京都大学大学院の藤井聡教授に「コンクリートが日本を救う」一人のためにこそコンクリートを と題してご講演をいただき、たくさんの方に聴講していただきました。

藤井先生は今後30年ほどの間に70%の確率で首都直下型地震が起き、東日本大震災の6倍の112兆円の損失が発生する可能性が高く、その対策として『列島強靱化10年計画』が必要だと話されました。要点は以下のとおりです。

列島強靱化10年計画

- ・各種の危機(巨大地震、富士山噴火、第二のリーマンショック、等)に遭遇しても、日本が亡びず、存続できるような「強靱さ」を手に入れるための計画。
- ・「強靱」=resilient=「柳の木」のイメージ(つまり、①致命傷を回避、②被害を最小化、③早期回復)
- ・列島強靱化のための八策
 - 1、「防災・減災」のためのインフラ対策(首都直下型・東海南海東南海対策で約20兆円)
 - 2、「リスク・コミュニケーション」の推進
 - 3、「地域共同体/コミュニティ」の維持と活性化
 - 4、「有事」を用意した「強靱なエネルギー・システム」の構築(原発M9対策・冗長化)
 - 5、企業・工場の「BCP」の策定を義務化すべし
 - 6、「有事」の際の「救援・復旧対策」を事前想定すべし(交通網の冗長化等)
 - 7、日本全体の「経済力」の維持・拡大に努めるべし
 - 8、「強靱な国土構造」の実現(国会等の移転の議論再燃+日本海側等の開発)



「強靱化」の基本的な考え方

「平時」のための過剰な効率化を避け、「まさか」(有事)を想定し...

- ・システムの「二重化」「三重化」(=システムの冗長化)
 - (東北太平洋側の沿岸部だけではなく、内陸部に高速道路があったため早期救援が可能となった)
 - (原発の自家発電装置は1つしか無かったので、大事故となった)
 - ・「備蓄」を増やし、「自給率」を高める
 - (今回精油所の稼働率が平時の時約7割だったので精油所が破損しても国内の混乱は最小化された)
 - ・「致命傷」に対する徹底的な対策
 - (国会等のより安全な場所への移転or地下化or耐震強化 等)
 - (原発のM9対策・地下化)
 - ・「諸機能の分散化」(「効率的な破壊」を避けるために)
 - (「日本海側」の開発を進め、太平洋側の諸機能を分散化)
 - (各企業は、「東京の本社」が破壊されても、事業が継続できるように、西日本にも本社を作る、等)
- これらは全て、「事業仕分け」「構造改革」等の効率化の発想とは、逆方向の取り組み、基本的な考え方を大きく転換しないと、我が国の脆弱化は進行し、国難の危機を乗り越えるための「強靱性」を得ることができない。

おわりに

- 総額で、100~200兆円程度の公共投資が「列島強靱化」に必要
 - 東日本大震災の震災復興関係 30兆~60兆円
 - 基本的な耐震強化・津波対策(老朽化対策含) 20兆~50兆円
 - 東西交流路の確保(中央新幹線および第二東名等) 15兆~20兆円
 - 国土構造の分散化のためのインフラ整備 15兆~30兆円
 - エネルギー関連の強靱化(自給率向上策、原発耐震強化等) 15兆~30兆円
 - その他(BCP促進、移転促進のための税制優遇、防災教育など) 10兆~20兆円
- この投資がなければ、東日本は復興できず、デフレが深刻化し、巨大震災で「致命傷」を負い、GDPは、早晩、300兆円代にまで凋落することともなろう。
- 一方で、この投資を行えば「乗数効果」を通して、日本のGDPは600兆~900兆円程度にまで復活するだろう！
(→そうなれば、税収も増え、財政も再建し、増税も可能となり、少子高齢化対策も可能となる)



会計検査こぼれ話

今月も、『公共工事と会計検査』の改訂7版より「会計検査こぼれ話」をご紹介します。一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の市川 啓次郎 (いちかわ けいじろう)氏 は 昭和 19 年生まれ。元会計検査院 国土交通統括検査室長を務め、現在は財団法人経済調査会の技術顧問としてご活躍中です。

会計検査こぼれ話 : 「もっと検査院！」

検査院に就職してもうじき丸二十年になるが、思い起こせばこの間に、検査院を取り巻く環境、世間の検査院に対する眼差しは、だいぶ様変わりしたと痛感している。

筆者が新入社員だった頃、庁舎最寄り駅である地下鉄出入口の案内表示には、なぜか会計検査院だけがなかった。他省庁の表記はあるのになぜだ？ なくても支障がないからか…などと寂しく思っているうち、ある日「会計検査院」の文字を見つけ、嬉しくちょっぴり誇らしげな気持ちになったのを記憶している。当時、旧大蔵省から着任された院長が、検査院も加えていただくよう要請されたと聞いているが、検査院を一般にもっとPRしようと、広報誌「けんさいん」が発刊されたのも、確かこの院長の発案によるものだったと思う。

平成の時代に入り、バブル不況が来ると、検査院を含め公務員への風当たりは一気に強まった。街頭インタビューした訳ではないが、大切な税金がどのように使われているか、もっと関心を持つべきと一般の人々がさらに強く思うようになったのも、このあたりからではないか。

平成13年度に施行された情報公開法もそれを後押ししたようで、各地で市民オンブズマンが自治体に対し決算資料の開示請求をしている様子を見聞きすると、こちらも頑張らなければ、という気が一層してきた。以前にも増して、検査院！もっとしっかりやらんか！ という国民の皆様からのご意見を、多々頂戴するようになってきたからだ。



そんな世論を反映してか、国会の場を中心に決算重視の機運が高まり、検査院の権限拡大についても議論された結果、17年度には、国から委託を受けた契約の相手先についても検査ができるようになった。

批判官庁である検査院はあまり目立たない方がいい、関心のある人にだけ検査報告を見てもらえばよい、という昔の内向きな考えから脱却し、常に国民代表との気概で検査を行い、その結果を広く一般に向けて公表するという積極的な姿勢が、今こそ求められているのではないか。

レオちゃんの製品紹介コーナー

◆◆◆◆ テールアルメ・スーパーテールアルメ ◆◆◆◆

こんにちは！ライオン通信のレオちゃんです♪

小紙8月号でも詳しくご紹介致しましたテールアルメですが、さらに実績を伸ばし、現在も鳥取県内だけでなく中国地方全域へ連日のように納入しています。

今回は前回ご紹介してからこれまでの施工完了・施工中の現場をご紹介していきたいと思います！

JFE商事 テールワン 株式会社
 JFE
<http://www.terrearmee.com/>



スーパーテールアルメ 積石模様

鳥取西道路嶋地区改良工事（発注■国土交通省）

鳥取市内の嶋地区で工事中の現場です。
 コーナー部が多いですが、きれいに施工されています。



スーパーテールアルメは見た目もスッキリきれいな仕上がりです♪



テールアルメ 積石模様

広留野3期基幹農道改良工事（発注 ■八頭総合事務所）

鳥取県八頭郡内で約3年間継続して納入している現場です。
今回の工区では2壁分の納入でしたが、1つ目は施工が完了し、
2つ目も近々施工完了予定です。



スーパーテールアルメ ハツリ模様

長屋賀陽線（発注 ■岡山県備中県民局）

岡山県新見市内で約2年継続中の現場です。
規模の大きな補強土壁です。
今工事分は納入が終わり、あとは完成を待つのみです。



◆製品に関するお問い合わせ☆資料請求は

直通電話：**0858-73-0500**

までお気軽にどうぞ！

FAX：**0858-73-0535**

E-mail：**info@kooge.jp**



◆ ◆ ◆ 編集後記 ◆ ◆ ◆

藤井先生は全国各地に建設業者が必要なこと、その存続のために談合が必要ならそれも容認しなければならないこと、など誤解を恐れず熱く語られました。翌々日、NHKの『日曜討論』に出演するため勉強しないといけないそうで、夜の列車で京都へお帰りになりました。クールと熱さ、行動力を持ち合わせた先生という印象でした。（山根）

<URL><http://www.kooge.jp/>

<e-mail>info@kooge.jp